

たり、皇胤の貴種より出ぬる人、蔭をたのみいと才などもなく、剩へ人にをこり慢する心もあるべきにや、人臣の禮にたがふ事ありぬべし、寛平の御記に其はし見え侍りしなり、後をもよくかゝみさせ給ひけるにこそ、

〔續日本紀三十九〕延曆六年二月庚申、勅諸勝賜姓廣根朝臣、岡成長岡朝臣、

○按ズルニ、諸勝ハ光仁天皇ノ皇子、岡成ハ桓武天皇ノ皇子ニシテ、皇子賜姓ノ始メナリ、

〔公卿補任桓武〕延曆廿一年十二月己酉、賜良峰朝臣姓于安世、桓武貫右京、

〔享祿本類聚三代格十七〕詔朕〇嗟當揖讓纂踐天位、德愧睦邇、化謝覃遠、徒歲序屢換、男女稍衆、未識

子道、還爲人父、辱累封邑、空費府庫、朕傷于懷、思除親王之號、賜朝臣之姓、編爲同籍、後從事於公、出身

之初、一叙六位、唯前號親王、不可更改、同母後產、猶復一例、其餘如可關者、朕殊裁下、夫賢愚異智、顧育

同恩、朕非忍絕、廢體餘分、折枝葉、固以天地惟長、皇王遞興、豈競康樂於一朝、忘彫弊於萬代、普告内外、

令知此意、

弘仁五年五月八日〇又見河海抄

〔新撰姓氏錄左京皇別〕源朝臣 源朝臣信年六、腹廣弟源朝臣弘年四、腹上毛弟源朝臣常年四、弟源

朝臣明年二、已上二人妹源朝臣貞姬年六、腹布妹源朝臣潔姬年六、妹源朝臣全姬年四、已上二人妹

源朝臣善姬年二、腹百信等八人是今上〇嗟親王也、而依弘仁五年五月八日勅、賜姓貫於左京一條

一坊、即以信爲戶主、

〔三代實錄七〕貞觀五年正月三日丙寅、大納言正三位兼行右近衛大將源朝臣定薨、〇中定者、嗟峨

太上天皇之子也、〇中弘仁五年特蒙明詔、諸皇子未爲親王者、皆賜姓源朝臣、定是源氏之第六郎也、

其源之命氏始於此矣、太上天皇以定奉淳和天皇爲子、淳和天皇受而愛之、過所生之子、更賜寵姬永

原氏、令爲之母、故世稱定有二父二母焉、原姬所謂亭子女御也、天長四年二月廿八日、淳和天皇奉書